

定期作況報告

平成20年11月訂正版
(11月20日現在・最終)

北海道立北見農業試験場

1. 気象経過

1) 融雪期以降の経過

4月：上旬の平均気温は平年より高く、中旬はやや高く、下旬は高かった。4月の日平均気温は5.9℃で平年より高かった(+1.7℃)。上旬の降水量は平年より極めて多く、中旬は少なく、下旬はやや少なく、月合計は41.0mmで平年並であった。上旬の日照時間は平年並、中旬は多く、下旬はやや少なく、月合計は166.9時間で平年並であった。

5月：上旬の平均気温は平年より高く、中・下旬は低かった。5月の日平均気温は9.7℃で平年よりやや低かった(-0.9℃)。上旬の降水量は平年より少なく、中旬は極めて多く、下旬は並で、月合計は82.5mmで平年よりやや多かった。上旬の日照時間は平年よりやや少なく、中旬は並、下旬は少なく、月合計は126.3時間で平年よりやや少なかった。

6月：上旬の平均気温は平年よりやや高く、中旬はやや低く、下旬は極めて低かった。6月の日平均気温は13.8℃で平年よりやや低かった(-1.2℃)。上・中旬の降水量は平年並、下旬は少なく、月合計は40.0mmで平年よりやや少なかった。日照時間は各旬とも平年並で、月合計は143.4時間で平年並であった。

7月：上旬の平均気温は平年より極めて高く、中・下旬はやや低かった。7月の日平均気温は18.6℃で平年よりやや高かった(+0.7℃)。降雹を伴う豪雨(52mm)が7月5日に観測された上旬の降水量は平年より極めて多く、中旬は多く、下旬は少なく、月合計は135.0mmで平年よりやや多かった。上旬の日照時間は平年より多く、中旬は少なく、下旬はやや多く、月合計は127.7時間で平年並であった。

8月：上旬の平均気温は平年よりやや低く、中旬は低く、下旬は極めて低かった。8月の日平均気温は18.0℃で平年より低かった(-1.7℃)。上旬の降水量は平年よりやや少なく、中・下旬は並で、月合計は101.0mmで平年よりやや少なかった。上旬の日照時間は平年よりやや多く、中旬はやや少なく、下旬は少なく、月合計は110.1時間で平年よりやや少なかった。

9月：上旬の平均気温は平年より極めて高く、中旬は高く、下旬はやや低かった。9月の日平均気温は16.3℃で平年よりやや高かった(+1.1℃)。上旬の降水量は平年より多く、中・下旬は少なく、月合計は100.5mmで平年よりやや少なかった。上・中旬の日照時間は平年より多く、下旬はやや多く、月合計は208.6時間で平年より多かった。

10月：上旬の平均気温は平年並、中旬は高く、下旬はやや高かった。10月の日平均気温は9.5℃で平年よりやや高かった(+1.1℃)。降水量は各旬とも平年より少なく、月合計は18.5mmで平年より少なかった。上旬の日照時間は平年よりやや少なく、中旬はやや多く、下旬は並で、月合計は152.2時間で平年並であった。

11月：上旬の平均気温は平年よりやや低く、中旬は高かった。中旬までの日平均気温は3.0℃で平年並であった(+0.5℃)。上旬の降水量は平年並み、中旬は極めて多く、中旬までの合計は45.0mmで平年より多かった。上・中旬の日照時間は平年並で、中旬までの合計は83.5時間で平年並であった。

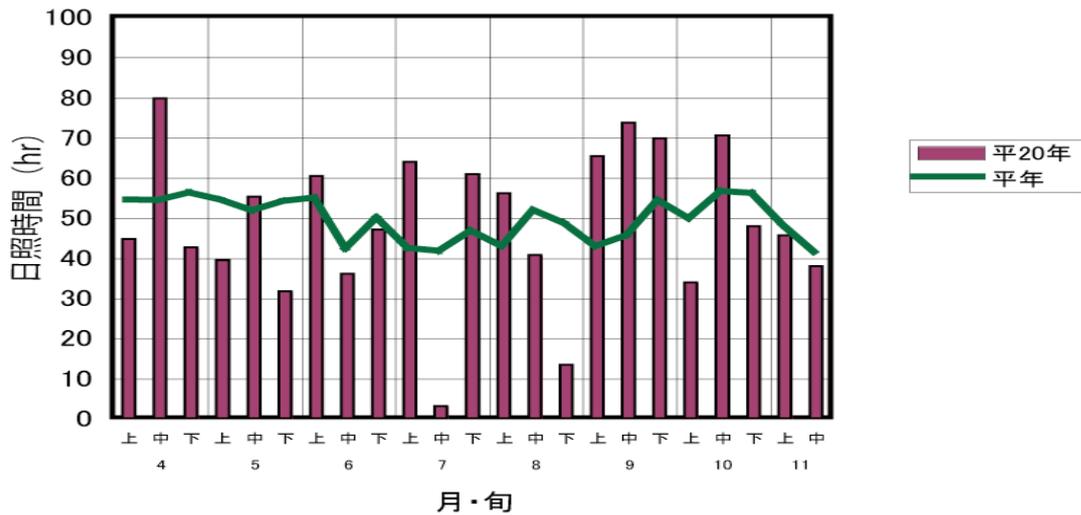
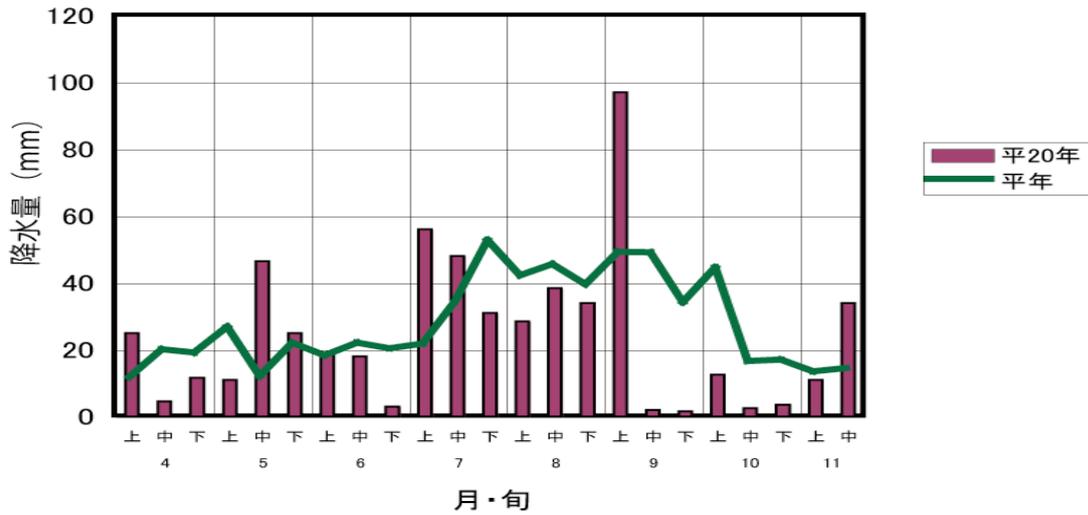
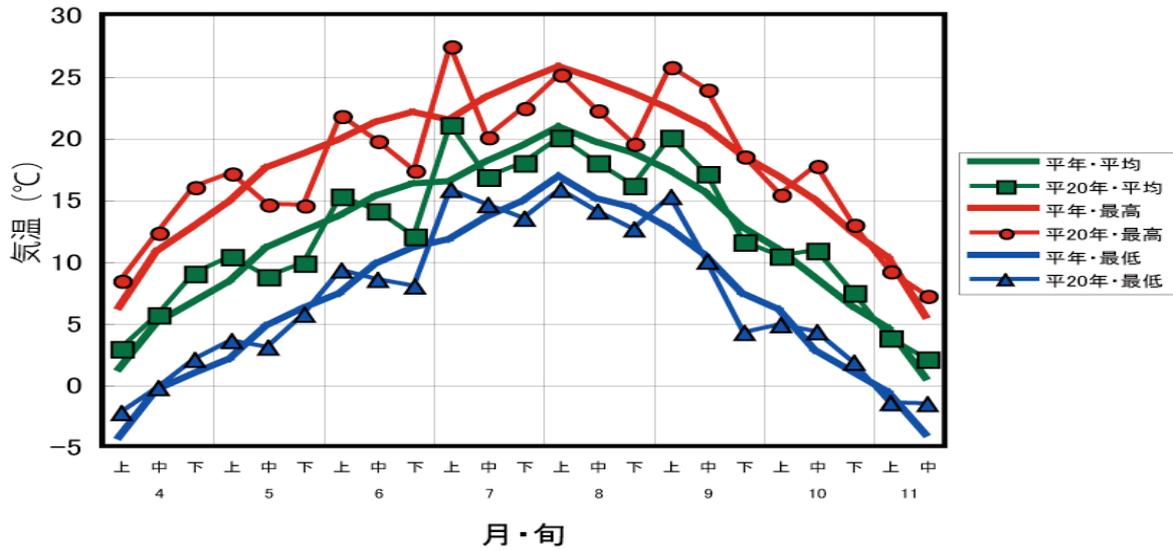
農耕期間中(5月～9月)の気温、降水量及び日照時間の推移を平年と比較すると以下のとおりである。

気温：5月、6月は平年よりやや低く、7月は平年よりやや高く、8月は平年より低く、9月は平年よりやや高かった。この期間の平均気温の積算値は2337.3℃で、平年対比で62.4℃低い並であった。

降水量：5月は平年よりやや多く、6月は平年よりやや少なく、7月は平年よりやや多く、8月、9月は平年よりやや少なく、特に、9月中旬以後の降水量が少なかった。この期間の降水量の積算は459.0mmで、平年対比で23.7mm少ない並であった。

日照時間：5月は平年よりやや少なく、6月、7月は平年並、8月は平年よりやや少なく、9月は平年より多かった。この期間の日照時間の積算は716.1時間で、平年対比で2.1時間少ない並であった。

2) 気温、降水量及び日照時間の平年との比較



3) 気象表

月・旬	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			降水量(mm)			日照時間(hr)			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
4	上	2.9	1.2	1.7	8.5	6.2	2.3	-2.3	-4.3	2.0	25.0	11.3	13.7	44.7	54.1	△ 9.4
	中	5.7	4.9	0.8	12.3	10.7	1.6	-0.2	-0.5	0.3	4.5	19.6	△ 15.1	79.7	53.9	25.8
	下	9.0	6.6	2.4	16.0	12.7	3.3	2.1	0.8	1.3	11.5	18.6	△ 7.1	42.5	55.8	△ 13.3
5	上	10.4	8.3	2.1	17.2	14.8	2.4	3.6	2.0	1.6	11.0	26.4	△ 15.4	39.4	54.1	△ 14.7
	中	8.8	11.0	△ 2.2	14.6	17.5	△ 2.9	3.1	4.7	△ 1.6	46.5	11.5	35.0	55.2	51.3	3.9
	下	9.9	12.3	△ 2.4	14.6	18.6	△ 4.0	5.7	6.1	△ 0.4	25.0	21.5	3.5	31.7	53.7	△ 22.0
6	上	15.3	13.6	1.7	21.8	19.8	2.0	9.3	7.3	2.0	19.0	17.7	1.3	60.4	54.5	5.9
	中	14.1	15.2	△ 1.1	19.8	21.2	△ 1.4	8.6	9.7	△ 1.1	18.0	21.5	△ 3.5	36.0	41.9	△ 5.9
	下	12.1	16.2	△ 4.1	17.4	22.0	△ 4.6	8.0	11.0	△ 3.0	3.0	19.8	△ 16.8	47.0	49.6	△ 2.6
7	上	21.1	16.4	4.7	27.4	21.4	6.0	15.8	11.7	4.1	56.0	21.2	34.8	63.9	42.0	21.9
	中	16.9	18.0	△ 1.1	20.1	23.2	△ 3.1	14.6	13.5	1.1	48.0	34.0	14.0	3.0	41.3	△ 38.3
	下	18.0	19.3	△ 1.3	22.4	24.5	△ 2.1	13.5	14.8	△ 1.3	31.0	52.2	△ 21.2	60.8	46.3	14.5
8	上	20.1	20.8	△ 0.7	25.1	25.7	△ 0.6	15.8	16.8	△ 1.0	28.5	41.7	△ 13.2	56.0	42.4	13.6
	中	18.0	19.6	△ 1.6	22.3	24.7	△ 2.4	14.1	15.0	△ 0.9	38.5	45.1	△ 6.6	40.7	51.5	△ 10.8
	下	16.1	18.7	△ 2.6	19.6	23.6	△ 4.0	12.6	14.3	△ 1.7	34.0	39.0	△ 5.0	13.4	48.2	△ 34.8
9	上	20.1	17.3	2.8	25.8	22.3	3.5	15.2	12.6	2.6	97.0	48.8	48.2	65.3	42.4	22.9
	中	17.1	15.5	1.6	23.9	20.8	3.1	10.0	10.4	△ 0.4	2.0	48.6	△ 46.6	73.6	45.1	28.5
	下	11.6	12.7	△ 1.1	18.5	18.5	0.0	4.2	7.3	△ 3.1	1.5	33.7	△ 32.2	69.7	53.9	15.8
10	上	10.5	10.9	△ 0.4	15.4	16.8	△ 1.4	4.9	6.0	△ 1.1	12.5	44.1	△ 31.6	33.9	49.3	△ 15.4
	中	10.9	8.6	2.3	17.8	14.9	2.9	4.3	2.7	1.6	2.5	16.0	△ 13.5	70.5	56.1	14.4
	下	7.5	6.3	1.2	13.0	12.3	0.7	1.8	1.0	0.8	3.5	16.5	△ 13.0	47.8	55.7	△ 7.9
11	上	3.8	4.5	△ 0.7	9.2	10.2	△ 1.0	-1.5	-0.7	△ 0.8	11.0	12.9	△ 1.9	45.6	47.7	△ 2.1
	中	2.1	0.5	1.6	7.2	5.5	1.7	-1.5	-4.1	2.6	34.0	14.0	20.0	37.9	41.0	△ 3.1

注) 本年の観測値は、置戸町境野のアメダスデータ速報値である。

平年値は気象庁気象統計情報による境野の前10カ年データの平均値である。

4) 季節表

項目	前年根雪始 月日	融雪期 月日	根雪期間 日数	耕鋤始 月日	降雪終 月日	晩霜 月日	初霜 月日	無霜期間 日数	降雪始 月日	農耕期間の積算(5~9月)		
										平均気温 (°C)	降水量 (mm)	日照時間 (hr)
本年	12.14	3.16	94	4.22	5.12	5.13	9.28	137	10.17	2337.3	459.0	716.1
平年	11.29	4.12	135	4.25	4.28	5.13	10.10	149	10.30	2399.7	482.7	718.2
比較	15	△26	△41	△3	14	0	△12	△12	△13	△62.4	△23.7	△2.1

注) 農耕期間の積算は置戸町境野のアメダス観測値により、それ以外は北見農試観測値である。

2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、網走支庁管内全体を代表するものではありません。

1) 秋まき小麦（平成19年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種期および出芽期は平年並であった。昨年9月25日に降雹があり出芽直後の鞘葉が2割程度折損したが、その後生育に影響はなかった。出芽期以降、気温は概ね平年並に推移し、越冬前の草丈および茎数は平年をやや下回ったが、主茎葉数は5.6枚、茎数は1,500本/m²弱で、越冬態勢としては十分な生育を確保した。根雪期間は著しく短く、調査圃場の積雪が少なかったため、雪腐病の発生は皆無であった。融雪後、5月上旬まで高温が続き、生育は順調に進んだが、5月中下旬および6月中旬は低温寡照で生育が緩慢となったため、出穂期は平年より1日早く、草丈は平年をやや上回り、茎数は平年をやや下回った。6月下旬は低温、7月上旬は高温で推移したが、7月中旬はやや低温で寡照多雨となり、登熟はやや緩慢で、成熟期は平年より1日遅い7月26日であった。稈長は平年よりやや長く、穂長は平年並であった。穂数および千粒重は平年をやや下回ったが、子実重は平年並であったことから、一穂粒数は平年よりやや多いものと考えられる。細麦がやや多く、粒の外観品質は平年よりやや劣ったが、検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	ホクシン			
	本年	平年	比較	
播種期 (平成19年月.日)	9.18	9.18	0	
出芽期 (平成19年月.日)	9.25	9.25	0	
出穂期 (平成20年月.日)	6.9	6.10	△1	
成熟期 (平成20年月.日)	7.26	7.25	1	
草丈(cm)	(平成19年11月20日)	17.0	19.7	△2.7
	(平成20年5月20日)	41.3	39.4	1.9
	(平成20年6月20日)	95.9	90.3	5.6
茎数(本/m ²)	(平成19年11月20日)	1471	1690	△219
	(平成20年5月20日)	1643	1260	383
	(平成20年6月20日)	699	742	△43
稈長(cm) (成熟期)	88	83	5	
穂長(cm) (成熟期)	8.4	8.3	0.1	
穂数(本/m ²) (成熟期)	649	713	△64	
子実重(kg/10a)	602	605	△3	
同上平年比(%)	100	100	0	
リットル重(g)	790	814	△24	
千粒重(g)	37.0	39.0	△2.0	
品質(検査等級)	1	1	0	

注) 平年値は前7カ年中、平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5カ年の平均値。

2) 秋まき小麦（平成20年9月播種） 作 況：平年並

事 由：播種は9月17日に行った。出芽期は平年並の9月24日であった。9月中下旬の降水量は平年より少なく土壌が乾燥気味であったため、出芽はややばらついたが、10月以降は適度な降雨があり、気温は平年並か平年よりやや高く推移したことから、生育はほぼ斉一となった。越冬前の草丈は平年をやや上回り、茎数は平年並である。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ホクシン		
	本年	平年	比較
播種期 (平成20年月.日)	9.17	9.17	0
出芽期 (平成20年月.日)	9.24	9.24	0
草丈(cm) (平成20年11月20日)	20.7	19.4	1.3
茎数(本/m ²) (平成20年11月20日)	1801	1743	58

注) 平年値は前7カ年中、平成14年(最凶)、15年(最豊)を除く5カ年の平均値。

3) 春まき小麦

作 況 : 良

事 由：融雪期は平年より早かったものの、4月上旬の降雨により、播種期は平年並みの4月21日となった。播種後は気温が平年より高く推移し、出芽期は5月3日となり平年より早かった。その後、5月中・下旬の低温により生育はやや遅れたものの、分けつが促進された。6月上旬は気温がやや高く推移したため生育は回復し、草丈はほぼ平年並みで、茎数は平年を上回ったが、6月中・下旬は低温で推移したため、出穂期は平年より5日程度遅い6月27日となった。7月上旬は高温で日照時間も多かったことから生育は旺盛になり、稈長、穂長は平年より長く、穂数は平年より多くなった。7月5日の局地的な豪雨により一部で倒伏が発生した。7月中旬以降は低温傾向で推移し、成熟期は平年より5日程度遅れたが、登熟期間は平年並みであった。千粒重、リットル重は平年をやや下回ったが、穂長、穂数が平年を上回ったことから、子実重は平年を14%～23%上回り、多収となった。検査等級は1等であった。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	ハルユタカ			春よ恋			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	4.21	4.20	1	4.21	4.21	0	
出芽期 (月.日)	5.3	5.4	△ 1	5.3	5.6	△ 3	
出穂期 (月.日)	6.27	6.21	6	6.27	6.23	4	
成熟期 (月.日)	8.13	8.7	6	8.11	8.7	4	
草丈(cm)	(5月20日)	15.7	17.5	△ 1.8	15.6	16.0	△ 0.4
	(6月20日)	68.0	66.9	1.1	68.4	66.1	2.3
茎数(本/㎡)	(5月20日)	333	465	△ 132	334	400	△ 66
	(6月20日)	972	701	271	993	718	275
稈長(cm)	(7月20日)	88	82	6	95	85	10
穂長(cm)	(7月20日)	8.9	8.0	0.9	8.9	8.2	0.7
穂数(本/㎡)	(7月20日)	571	502	69	580	490	90
子実重(kg/10a)		470	411	58	535	434	101
同上平年比(%)		114	100	14	123	100	23
リットル重(g)		800	815	△ 15	803	815	△ 12
千粒重(g)		37.3	41.2	△ 3.9	40.1	42.2	△ 2.1
品質(検査等級)		1	2	△ 1	1	1	0

注) 平年値は前7カ年中、「ハルユタカ」は平成15年(最凶)、18年(最豊)、「春よ恋」は平成14年(最凶)、18年(最豊)を除く5カ年平均。

4) とうもろこし(サイレージ用)

作 況：やや不良

事 由：播種期は平年より1日早い5月16日で、出芽期は平年並の5月30日であった。出芽期以降は6月中旬の気温が平年より低く推移したため、6月20日の草丈・葉数ともに平年を下回った。その後、6月下旬も低温で推移し、7月上旬は高温で推移したものの、7月中旬が低温で推移したため、7月20日の草丈・葉数も、ともに平年を下回った。また、7月下旬も引き続き低温で推移したため、開花期と抽糸期はともに平年より5日遅れた。その後も8月中旬が平年よりやや低温で推移したため、8月20日の葉数は平年並であったものの、草丈は平年よりやや低かった。収穫期は平年より4日遅い9月25日で、収穫時の子実の熟度は黄熟初期と、平年より登熟がやや遅れ、また総体の乾物率は平年より低かった。乾物総重は平年比が97%、推定TDN収量は平年比が94%であった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	チベリウス			
	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.16	5.17	△1	
出芽期 (月.日)	5.30	5.30	0	
開花期 (月.日)	8.9	8.4	5	
抽糸期 (月.日)	8.8	8.3	5	
収穫期 (月.日)	9.25	9.21	4	
収穫期の熟度	黄熟初期	黄熟中期		
草丈(cm)	(6月20日)	25.4	33.9	△8.5
	(7月20日)	123.7	153.1	△29.4
	(8月20日)	288.8	296.7	△7.9
稈長(cm)	(9月20日)	260.0	265.3	△5.3
葉数(枚)	(6月20日)	4.4	4.8	△0.4
	(7月20日)	11.3	12.2	△0.9
	(8月20日)	14.7	15.0	△0.3
生総重(kg/10a)	6976	6504	472	
乾物茎葉重(kg/10a)	1014	900	114	
乾物雌穂重(kg/10a)	879	1050	△171	
乾物総重(kg/10a)	1893	1950	△57	
同上平年比(%)	97	100	△3	
推定TDN収量(kg/10a)	1338	1416	△78	
同上平年比(%)	94	100	△6	
総体の乾物率(%)	27.1	30.2	△3.1	
乾雌穂重割合(%)	46.5	53.9	△7.4	
有効雌穂割合(%)	101.7	99.6	2.1	

注) 平年値は前4か年の平均(供試品種を変更したため)。

推定TDN収量 = 乾物茎葉重 × 0.582 + 乾物雌穂重 × 0.850。

5) 大豆

作 況：平年並

事由：平年より1日遅い5月23日に播種を行った。播種後の5月下旬は低温であったが、6月上旬はやや高温に推移し、出芽期はほぼ平年並であった。その後はやや低温に推移したことから、開花始は平年より3～4日遅れ、また、7月3～5半旬が著しい日照不足であったため、徒長した。8月下旬の平均気温が平年より極めて低かったため、不稔莢が多く発生した。9月上旬以降の平均気温は平年よりかなり高く、登熟は進んだが、生育の遅れは回復せず、成熟期は平年より5～8日遅く、「トヨコマチ」、「ユキホマレ」とともに10月4日であった。「トヨコマチ」の着莢数は平年並で、百粒重が平年を上回ったため、子実重は平年を9%上回った。「ユキホマレ」の百粒重は平年を上回ったものの、着莢数が少なかったため、子実重は平年を4%下回った。また、両品種ともに8月下旬の低温による裂開粒の発生がみられたが、検査等級に影響を与える程の発生率ではなかったため、「ユキホマレ」の品質は平年より優り、「トヨコマチ」は裂皮粒の発生が「ユキホマレ」よりやや多く、品質は平年並であった。

以上のことから、本年の作況は「平年並」である。

調査項目	トヨコマチ			ユキホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.23	5.22	1	5.23	5.22	1	
出芽期 (月.日)	6.6	6.6	0	6.6	6.7	△1	
開花始 (月.日)	7.23	7.20	3	7.24	7.20	4	
成熟期 (月.日)	10.4	9.26	8	10.4	9.29	5	
主茎長 (cm)	(6月20日)	9.2	10.3	△1.1	9.0	9.2	△0.2
	(7月20日)	44.4	42.5	1.9	42.9	41.8	1.1
	(8月20日)	69.6	60.8	8.8	71.2	59.9	11.3
	(9月20日)	67.9	60.7	7.2	69.8	59.7	10.1
	(成熟期)	67.9	60.7	7.2	69.8	59.7	10.1
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.6	0.8	△0.2	0.6	0.7	△0.1
	(7月20日)	7.0	6.4	0.6	6.5	6.3	0.2
主茎節数	(8月20日)	11.6	11.3	0.3	11.4	11.1	0.3
	(9月20日)	11.4	11.2	0.2	11.6	11.0	0.6
	(成熟期)	11.4	11.2	0.2	11.6	11.0	0.6
分枝数 (本/株)	(7月20日)	3.0	3.0	0.0	2.2	2.6	△0.4
	(8月20日)	5.3	5.9	△0.6	4.7	5.3	△0.6
	(9月20日)	5.2	5.6	△0.4	4.5	5.0	△0.5
	(成熟期)	5.2	5.6	△0.4	4.5	5.0	△0.5
着莢数 (個/株)	(8月20日)	70.6	64.9	5.7	63.5	62.7	0.8
	(9月20日)	62.2	63.2	△1.0	63.5	69.2	△5.7
	(成熟期)	62.2	62.1	0.1	63.5	69.2	△5.7
子実重 (kg/10a)	364	333	31	351	367	△16	
同上平年比 (%)	109	100	9	96	100	△4	
百粒重 (g)	37.7	32.5	5.2	38.1	33.2	4.9	
屑粒率 (%)	6.0	0.7	5.3	5.6	1.9	3.7	
品質 (検査等級)	3上	3上		2上	3上		

注1) 平年値は前7か年中、平成13年(最凶)、17年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

6) 小豆

作 況 : 良

事 由 : 平年より1日遅い5月23日に播種を行った。播種後の5月下旬は低温であったが、6月上旬はやや高温に推移し、出芽期は平年より3日遅かった。その後はやや低温に推移したことから、開花始は平年より2~3日遅かった。7月4半旬が低温であったため、「サホロショウズ」では着莢への影響がみられたが、9月上旬以降の平均気温が平年よりかなり高かったため、着莢数は大きく回復した。生育後半に着莢した莢が多かったことから、成熟期は、「サホロショウズ」が平年より7日遅い9月27日、「エリモショウズ」が8日遅い10月6日であった。百粒重が平年をやや上回り、着莢数も平年をかなり上回ったことから、子実重は平年を17~23%上回った。子実の品質は、両品種とも平年をやや上回った。

以上のことから、本年の作況は「良」である。

調査項目	サホロショウズ			エリモショウズ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.23	5.22	1	5.23	5.22	1	
出芽期 (月.日)	6.10	6.7	3	6.11	6.8	3	
開花始 (月.日)	7.26	7.24	2	7.28	7.25	3	
成熟期 (月.日)	9.27	9.20	7	10.6	9.28	8	
主茎長 (cm)	(6月20日)	3.0	4.0	△1.0	3.2	4.2	△1.0
	(7月20日)	12.9	14.6	△1.7	12.8	15.5	△2.7
	(8月20日)	57.2	55.5	1.7	52.7	61.9	△9.2
	(9月20日)	67.2	57.9	9.3	64.5	67.1	△2.6
	(成熟期)	67.2	57.9	9.3	64.5	67.1	△2.6
本葉数 (枚)	(6月20日)	0.1	0.4	△0.3	0.1	0.3	△0.2
	(7月20日)	5.5	5.5	0.0	6.0	5.7	0.3
主茎節数	(8月20日)	12.1	11.6	0.5	12.9	13.1	△0.2
	(9月20日)	12.9	11.7	1.2	14.0	13.8	0.2
	(成熟期)	12.9	11.7	1.2	14.0	13.8	0.2
分枝数 (本/株)	(7月20日)	1.5	1.6	△0.1	1.3	1.4	△0.1
	(8月20日)	5.0	5.2	△0.2	4.8	4.8	0.0
	(9月20日)	3.6	4.2	△0.6	3.7	4.1	△0.4
	(成熟期)	3.6	4.2	△0.6	3.7	4.2	△0.5
着莢数 (個/株)	(8月20日)	30.5	48.5	△18.0	34.9	35.0	△0.1
	(9月20日)	55.9	51.5	4.4	66.7	48.6	18.1
	(成熟期)	55.9	52.6	3.3	61.5	49.8	11.7
子実重 (kg/10a)	433	369	64	502	409	93	
同上平年比 (%)	117	100	17	123	100	23	
百粒重 (g)	16.8	16.0	0.8	15.9	15.4	0.5	
屑粒率 (%)	5.0	4.8	0.2	4.8	2.7	2.1	
品質 (検査等級)	3上	3下		3下	4中		

注1) 平年値は前7か年中、平成15年(最凶)、18年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

7) 菜豆

作 況 : やや良

事由：平年より1日遅い5月23日に播種を行った。播種後の5月下旬は低温であったが、6月上旬はやや高温に推移し、出芽期は平年より3日遅かった。6月下旬以降はやや低温に推移したことから、開花始は4日遅れた。8月下旬の平均気温が平年より極めて低かったため、成熟期は平年より9～10日遅かった。「大正金時」、「福勝」ともに着莢数は平年をやや下回ったが、百粒重が平年を上回ったため、子実重は平年より5～7%上回った。また、「大正金時」では色流れ粒の発生により、屑粒率がやや高かった。子実の品質は「大正金時」は平年並、「福勝」は平年を上回った。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

調査項目	大正金時			福勝			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	5.23	5.22	1	5.23	5.22	1	
出芽期 (月.日)	6.9	6.6	3	6.10	6.7	3	
開花始 (月.日)	7.10	7.6	4	7.12	7.8	4	
成熟期 (月.日)	9.13	9.4	9	9.18	9.8	10	
主茎長, 草丈 (cm)	(6月20日)	8.6	10.3	△1.7	8.2	9.4	△1.2
	(7月20日)	38.2	36.3	1.9	41.8	36.6	5.2
	(8月20日)	43.1	39.2	3.9	43.9	41.4	2.5
	(9月20日)	48.0	41.1	6.9	53.7	43.0	10.7
	(成熟期)	48.0	41.1	6.9	53.7	43.0	10.7
本葉数(枚)	(6月20日)	0.2	0.9	△0.7	0.3	0.9	△0.6
	(7月20日)	3.4	3.4	0.0	3.5	3.7	△0.2
主茎節数	(8月20日)	5.1	5.4	△0.3	5.3	5.8	△0.5
	(9月20日)	5.1	5.4	△0.3	5.1	5.7	△0.6
	(成熟期)	5.1	5.4	△0.3	5.1	5.7	△0.6
分枝数(本/株)	(7月20日)	4.0	4.1	△0.1	4.1	3.9	0.2
	(8月20日)	6.1	4.6	1.5	6.0	4.2	1.8
	(9月20日)	4.0	4.2	△0.2	3.9	4.0	△0.1
	(成熟期)	4.0	4.2	△0.2	3.9	4.0	△0.1
着莢数(個/株)	(8月20日)	21.9	23.2	△1.3	20.4	21.0	△0.6
	(9月20日)	18.3	20.2	△1.9	16.9	18.7	△1.8
	(成熟期)	18.3	20.2	△1.9	16.9	18.7	△1.8
子実重(kg/10a)	358	336	22	399	379	20	
同上平年比(%)	107	100	7	105	100	5	
百粒重(g)	82.0	75.0	7.0	98.8	91.3	7.5	
屑粒率(%)	8.4	5.3	3.1	4.6	5.2	△0.6	
品質(検査等級)	3上	3上		2中	3中		

注1) 平年値は前7か年中、平成19年(最凶)、13年(最豊)を除く5か年の平均。

注2) 子実重と百粒重は水分15%換算。

8) ばれいしょ

作 況 : やや不良

事 由 : 5月中旬の天候不順の影響を受けて植え付けは平年より遅れ、「男爵薯」は5月16日、「コナフブキ」は5月19日に行った。植付後、5月中・下旬の気温が極めて低く推移したため、萌芽期は遅れ、「男爵薯」では平年より6日、「コナフブキ」では10日遅かった。この影響を受け、「男爵薯」、「コナフブキ」とも開花始は平年よりやや遅かった。7月上・中旬の降水により土壌が湿潤となり、また著しい寡照により地上部が軟弱徒長となり、8月20日の茎長は平年より「男爵薯」で21cm、「コナフブキ」で24cm上回った。枯凋期は「男爵薯」が平年より2日早かったが、「コナフブキ」は平年より3日遅かった。上いも重は、「男爵薯」がほぼ平年並であったのに対し、「コナフブキ」は植え付け、萌芽の遅れによる肥大の遅れを挽回するには至らず、平年比93%であった。でん粉価は、地上部の過繁茂により低く推移し、「男爵薯」で2.0ポイント、「コナフブキ」で1.1ポイント平年を下回った。その結果、「コナフブキ」のでん粉重は平年比89%であった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

調査項目	男爵薯			コナフブキ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
植付期 (月.日)	5.16	5.11	5	5.19	5.12	7	
萌芽期 (月.日)	6.6	5.31	6	6.12	6.2	10	
開花始 (月.日)	7.3	6.30	3	7.5	6.30	5	
枯凋期 (月.日)	9.2	9.4	△ 2	10.8	10.5	3	
茎長(cm)	(6月20日)	10.6	17.8	△ 7.2	7.3	17.0	△ 9.7
	(7月20日)	47	36	11	65	60	5
	(8月20日)	58	37	21	95	71	24
茎数(本/株)	(6月20日)	5.0	3.1	1.9	3.3	2.6	0.7
	(7月20日)	4.1	3.3	0.8	3.4	2.8	0.6
	(8月20日)	3.5	3.1	0.4	3.5	2.8	0.7
上いも重(kg/10a)	(8月20日)	4111	3982	129	2592	3594	△ 1002
	(9月20日)	—	—	—	4057	4417	△ 360
でん粉価(%)	(8月20日)	14.4	16.5	△ 2.1	19.2	21.5	△ 2.3
	(9月20日)	—	—	—	21.3	23.0	△ 1.7
でん粉重(kg/10a) (9月20日)	—	—	—	821	966	△ 145	
上いも数(個/株)	9.3	8.8	0.5	9.5	9.5	0.0	
上いも1個重(g)	99	102	△ 3	106	113	△ 7	
上いも重(kg/10a)	4057	4105	△ 48	4467	4806	△ 339	
同上平年比(%)	99	100	△ 1	93	100	△ 7	
でん粉価(%)	14.1	16.1	△ 2.0	21.9	23.0	△ 1.1	
でん粉重(kg/10a)	—	—	—	935	1055	△ 120	
同上平年比(%)	—	—	—	89	100	△ 11	

注) 平年値は前7か年中、「男爵薯」は平成15(最凶)、17(最豊)年を、「コナフブキ」は平成15(最凶)、18(最豊)年を除く5か年の平均。

9) てんさい

作 況 : やや良

事 由 : 移植栽培の播種は平年より2～3日早い3月21日に行い、育苗中の生育は順調であった。移植及び直播は平年並の5月9日に行った。移植直後の5月10～12日には、低温と降霜により、本葉が1～2枚枯死する個体が発生し、その後、5月中下旬、6月中下旬は低温で経過したので、初期生育は緩慢であった。7月上旬の高温多雨で生育は急速に回復し、平年並となったが、8月下旬の低温と9月上旬の多雨で生育は一時停滞した。9月下旬以降は、強い霜に遭うこともなく、茎葉の活性が維持された。また、降水量が少なく土壌が乾燥したうえに、気温の日較差が大きかった。このため、糖分の蓄積は急激に進んだ。収穫は平年並の10月20日に行った。移植栽培の根重は2品種平均で平年比100%、根中糖分は104%、糖量は104%、直播栽培の根重は平年比95%、根中糖分は105%、糖量は平年比99%である。

以上のことから、本年の作況は「やや良」である。

表 その1

調査項目	移植						直播			
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	3.21	3.24	△ 3	3.21	3.23	△ 2	5.9	5.9	0	
移植期 (月.日)	5.9	5.8	1	5.9	5.9	0	—	—	—	
出芽期 (月.日)	—	—	—	—	—	—	5.20	5.19	1	
収穫期 (月.日)	10.20	10.19	1	10.20	10.19	1	10.20	10.19	1	
草丈(cm)	(6月20日)	21.8	28.5	△ 6.7	21.5	27.5	△ 6.0	11.8	14.4	△ 2.6
	(7月20日)	63.3	56.1	7.2	60.5	53.0	7.5	55.4	50.1	5.3
	(8月20日)	68.4	64.6	3.8	64.3	59.0	5.3	69.6	64.3	5.3
	(9月20日)	72.9	66.7	6.2	67.1	60.3	6.8	71.0	66.0	5.0
生葉数(枚)	(6月20日)	10.1	11.5	△ 1.4	9.4	11.2	△ 1.8	5.5	6.9	△ 1.4
	(7月20日)	21.0	21.7	△ 0.7	21.1	19.5	1.6	18.9	19.4	△ 0.5
	(8月20日)	24.3	27.3	△ 3.0	24.9	26.8	△ 1.9	24.2	26.0	△ 1.8
	(9月20日)	27.8	31.2	△ 3.4	30.0	29.4	0.6	29.0	28.1	0.9
茎葉重 (g/個体)	(6月20日)	53	119	△ 66	50	104	△ 54	7	14	△ 7
	(7月20日)	848	689	159	879	612	267	659	474	185
	(8月20日)	962	945	17	1109	902	207	1042	908	134
	(9月20日)	1025	992	33	1179	972	207	1115	883	232
根重 (g/個体)	(6月20日)	10	22	△ 12	10	19	△ 9	1	1	0
	(7月20日)	270	267	3	294	273	21	120	132	△ 12
	(8月20日)	623	601	22	698	646	52	477	468	9
	(9月20日)	801	888	△ 87	985	919	66	716	740	△ 24
根周 (cm)	(7月20日)	21.6	21.5	0.1	23.6	22.4	1.2	17.2	17.3	△ 0.1
	(8月20日)	28.8	28.7	0.1	31.0	30.8	0.2	27.2	26.1	1.1
	(9月20日)	31.8	33.4	△ 1.6	35.8	35.3	0.5	32.0	30.6	1.4
根中糖分(%) (9月20日)	14.42	14.97	△0.55	14.59	15.36	△ 0.77	14.48	14.73	△ 0.25	

表 その2

調査項目	移植						直播		
	モノホマレ			アーベント			モノホマレ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
茎葉重 (kg/10a) (収穫期)	7064	6380	684	6511	6043	468	6389	5308	1081
根重 (kg/10a) (収穫期)	6800	6576	224	6739	6996	△ 257	5412	5693	△ 281
同上平年比(%)	103	100	3	96	100	△ 4	95	100	△ 5
根中糖分(%) (収穫期)	17.91	17.17	0.74	18.35	17.72	0.63	18.04	17.25	0.79
同上平年比(%)	104	100	4	104	100	4	105	100	5
糖量 (kg/10a) (収穫期)	1218	1128	90	1236	1238	△ 2	976	982	△ 6
同上平年比(%)	108	100	8	100	100	0	99	100	△ 1

注) 平年値は前7か年中、移植「モノホマレ」は平成15年(最凶)及び17年(最豊)、移植「アーベント」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)、直播「モノホマレ」は平成14年(最凶)及び16年(最豊)をそれぞれ除く5か年の平均。

10) 牧 草 (チモシー)

作 況 : やや不良

事 由 : 萌芽期は4月17日と平年と同日であり、冬損程度は平年並であった。1番草は、出穂始は平年と同日の6月12日で、出穂期は平年より1日遅い6月19日であった。草丈は平年並で、乾物率は平年より高かった。5月中下旬ならびに6月中旬の気温が平年と比べ低く推移したことにより、乾物収量は平年比90%と平年よりも少なかった。2番草は、1番草刈取後の再生期にあたる6月下旬から7月上旬にかけて少雨傾向で推移したため、草丈と節間伸長程度は平年並であったものの、乾物収量は平年比95%とやや少なかった。3番草は、草丈は平年並で、乾物率は平年より高かったが、乾物収量は平年比87%と少なかった。年間合計乾物収量は平年比91%とやや少なかった。

以上のことから、本年の作況は「やや不良」である。

表 その1

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
萌芽期	(月.日)	4.17	4.17	0
冬損程度		1.3	1.4	△0.1
被度(%)	(5月18日)	100	100	0
	2番草再生時	100	99	1
出穂始	(月.日)	6.12	6.12	0
出穂期	(月.日)	6.19	6.18	1
出穂程度	1番草	5.0	5.7	△0.7
節間伸長程度	2番草	3.3	3.5	△0.2
刈取日(月.日)	1番草	6.19	6.19	0
	2番草	8.8	8.8	0
	3番草	10.2	10.6	△4
倒伏程度	1番草	1.0	2.5	△1.5
病害罹病程度	1番草	3.3	1.5	1.8
	2番草	4.0	3.3	0.7
	3番草	4.5	4.3	0.2
草丈(cm)	(5月18日)	46	38	8
	(6月5日)	76	74	2
	1番草	103	100	3
	2番草再生時	42	36	6
	2番草	70	65	5
	3番草再生時	43	42	1
生草収量(kg/10a)	3番草	43	46	△3
	1番草	2326	2918	△592
	2番草	925	1054	△129
	3番草	466	715	△249
	合 計	3717	4687	△970
乾物率(%)	1番草	26.0	23.7	2.3
	2番草	24.1	22.5	1.6
	3番草	32.1	25.6	6.5

表 その2

調査項目		ノサップ		
		本年	平年	比較
乾物収量 (kg/10a)	1番草	605	671	△66
	同上平年比 (%)	90	100	△10
	2番草	605	671	△66
	同上平年比 (%)	95	100	△5
	3番草	222	233	△11
	同上平年比 (%)	87	100	△13
	合計	977	1077	△100
	同上平年比 (%)	91	100	△9

注) 平年値は前6か年のうち平成19年(最凶年)を除いた前5か年の平均(耕種概要と調査項目を大幅に変更したため)。冬損程度は1:無または微~9:甚。出穂程度および節間伸長程度は、1:無~9:極多。倒伏程度および病害罹病程度は、1:無または微~9:甚。病害は主に斑点病。

11) たまねぎ

作 況：不良（参考）

事由：播種は、早生種「改良オホーツク1号」では平年より6日早い2月29日、晩生種「スーパー北もみじ」では平年より4日早い3月6日に行った。育苗期間中は高温に推移し、苗生育は概ね順調であった。移植は、「改良オホーツク1号」では平年より6日早い5月2日、「スーパー北もみじ」では平年並の5月12日に行った。移植時の苗質は2品種ともほぼ平年並であった。移植後の5月下旬は低温に経過したため生育は停滞した。6月上・中旬はやや高温に経過し、適度な降雨もあったことから生育は概ね順調に推移した。7月5日の強い降雨により試験区の一部が冠水するとともに、葉にも雹害による損傷を受けた。7月中旬以降は最低気温が高く、冠水した試験区における株の腐敗は著しく進行した。倒伏期は「改良オホーツク1号」では平年より2日遅い8月1日、「スーパー北もみじ」では平年より1日早い8月12日であった。「改良オホーツク1号」は、平均一球重は平年並みであったが、肌腐れ症の激発により総収量は平年対比で64%であった。また、変形球と分球の発生が多く、規格内収量は平年対比で61%であった。「スーパー北もみじ」は、平均一球重は平年をやや下回り、総収量および規格内収量は平年対比で91%であった。なお、7月5日の暴風雨で冠水した試験区では半数以上の株が腐敗したため、収穫調査は比較的被害の少なかった場所のみを調査対象とした。このため、本年度の作況は参考成績とする。

以上のことから、本年の作況は「不良（参考）」である。

調査項目	改良オホーツク1号			スーパー北もみじ			
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	
播種期 (月.日)	2.29	3.6	△ 6	3.6	3.10	△ 4	
出芽期 (月.日)	3.13	3.18	△ 5	3.22	3.24	△ 2	
移植期 (月.日)	5.2	5.8	△ 6	5.12	5.12	0	
球肥大期 (月.日)	7.9	7.7	2	7.23	7.21	2	
倒伏期 (月.日)	8.1	8.3	△ 2	8.12	8.13	△ 1	
枯葉期 (月.日)	8.24	8.24	0	9.9	9.9	0	
収穫期 (月.日)	9.5	9.2	3	9.16	9.14	2	
草丈(cm)	移植時	25.3	25.2	0.1	31.6	23.1	8.5
	(6月20日)	42.7	42.5	0.2	38.0	34.8	3.2
	(7月20日)	74.3	73.8	0.5	88.8	79.3	9.5
生葉数(枚)	移植時	3.0	3.1	△ 0.1	3.6	3.1	0.5
	(6月20日)	6.5	6.0	0.5	6.6	5.7	0.9
	(7月20日)	10.0	9.3	0.7	10.7	10.5	0.2
葉鞘径(mm)	移植時	4.0	4.2	△ 0.2	4.4	4.0	0.4
	(6月20日)	10.2	10.1	0.1	9.5	8.5	1.0
	(7月20日)	19.1	19.2	△ 0.1	20.5	20.9	△ 0.4
葉身生重(g)	(7月20日)	108.5	107.0	1.5	153.5	126.3	27.2
球生重(g)	(7月20日)	69.4	98.6	△ 29.2	42.7	50.7	△ 8.0
	(8月20日)	213.9	246.5	△ 32.6	230.6	253.6	△ 23.0
葉身乾物率(%)	(7月20日)	6.8	8.5	△ 1.7	7.0	8.2	△ 1.2
総収量(kg/10a)		4630	7238	△ 2608	7176	8130	△ 954
規格内収量(kg/10a)		3740	6111	△ 2371	6202	6807	△ 605
同上平年比(%)		61	100	△ 39	91	100	△ 9
規格内率(%)		75	86	△ 11	86	83	3
平均一球重(g)		238	236	2	258	268	△ 10

注) 平年値は平成15年から平成19年までの5カ年の平均。